# 日野市　第４回ごみ減量・リサイクル等推進協議会　施策検討

A 班

| 施策項目 | 課題 | 施策 |
|---|---|---|
| 4.1.1　施策①：情報紙・市報等による普及啓発・情報提供 | ・普及啓発の不足 | ・スローガンの設定（全国 1 位であること等を市民にアピール・アプローチする）<br>・処理に要する費用と資源化に伴う歳入（成果）の広報（分別のメリットを実感することが行動変容につながる） |
| 4.1.1　施策②：ごみ学習推進プログラム | ・学習機会の更なる提供 | ・講習会・出前授業・分別学習の開催（学校、幼稚園・保育園）<br>・ごみ分別に関する講習会の開催（外国人向け）<br>・クリーンセンター見学機会の更なる増加 |
| 4.2.1　施策①：生ごみの水切りの推進 | ・水切り方法（絞るのか、乾かすのかなど）が分からない | ・生ごみの水切り方法の周知 |
| 4.3.1　施策①：分別徹底に向けた周知・啓発の強化 | ・ごみ・資源分別カレンダー、日野市ごみ分別辞典等で分別区分を調べても該当しないものがある | ・スマホのカメラで分別方法が分かるアプリの開発（カレンダー写真を撮るだけで分別品目がわかるように）<br>・ごみ分別アプリの改善（使い易いように）<br>・ごみ分別アプリの拡散・発信<br>・アプリの利活用の促進 |
| 4.3.2　施策②：家庭内における生ごみの減量・資源化の促進 | ・ダンボールコンポストの普及増 | ・最終処理の方法の検討（できた堆肥を収集してほしい、できた堆肥の活用方法までを含めて普及する） |
| 4.3.3　施策⑤：雑紙の減量・リサイクルの推進 | ・分別方法が分からないものがある<br>・小学校・中学校での回収日が不足 | ・資源化をできるものとできないものの一覧表の作成・配布<br>・小学校・中学校の教室に紙資源の分別 BOX の配置 |

B 班

| 施策項目 | 課題 | 施策 |
| --- | --- | --- |
| 4.1.1　施策①：情報紙・市報等による普及啓発・情報提供 | ・情報が一元化されていない | ・SNS・アプリ・AI の活用<br>・「ごみ・コンシェルジェ」の再開 |
| 4.3.4　施策⑥：プラスチック類の減量及び分別回収・リサイクルの推進 | ・プラスチック類の洗浄の目安がわからない | ・SNS 等の活用<br>・ごみ袋、有料袋（スーパー）を紙にする<br>・マイバッグ使用に対するインセンティブの付与 |
| 4.3.5　施策⑦：剪定枝の減量・リサイクルの推進 | ・剪定枝の取扱いに関する広報不足 | ・SNS 等を活用した啓発活動の強化（剪定枝を可燃ごみとして戸別収集に排出すると焼却処理されるが、拠点収集に出すとチップ化されて資源化される。この違いを理解していない市民が多いので更なる周知・広報が必要）※注）剪定枝拠点収集は現在廃止されている |
| 4.3.6　施策⑧：リサイクル品目拡大・拡充の検討 | ・拡大品目が何かがわかりにくい | ・拡大品目の詳細を周知 |
| 4.4.1　施策①：分別区分にあった適正な収集運搬 | ・ごみが減っても収集運搬車両台数は減らない（収集ルートは変わらないため、台数減にはつながらない） | ・収集運搬車両へのバイオマス活用やエネルギー活用（バイオディーゼル燃料・バイオガス燃料の使用、電気自動車（EV 化）など）<br>・運搬車両の環境配慮（ハイブリッド化によるアイドリングや燃料消費の低減など） |
| 4.4.2　施策②：プラスチック類資源化施設の維持管理 | ・プラントが停止に至る要因の周知不足 | ・プラントが停止に至る要因を市民に周知 |
| 4.6 ３市の連携体制の推進・強化 | ・３市以外の他市の情報が判らない | ・多摩地区の自治体共同でのイベントの開催 |
| 4.6.1 施策①：３市でのごみ減量・分別の徹底 | ・どんな機器に水銀が入っているか判らない | ・作業員の安全・健康を守るための対策を徹底 |
| 4.6.1 施策②：３市における情報共有の促進 | ・３市で何を話しているのか判らない | ・３市ごみ減量推進市民会議での協議内容を市民に周知<br>・広報の改善、SNS・アプリの活用 |

# 日野市　第４回ごみ減量・リサイクル等推進協議会　施策検討

C 班

| 施策項目 | 課題 | 施策 |
|---|---|---|
| 4.3.2　施策②：家庭内における生ごみの減量・資源化の促進 | ・施策の目的に記載のある「生ごみを家庭内で循環」というのがイメージがわかない<br>・⑤料理教室の開催は市が実施するのは困難では（過年度は NPO 団体が実施）。料理教室は生ごみを「出さない」施策（発生抑制）。「減量・資源化」ではないのでは。<br>・⑥「生ごみの減量方法を検討する」とあるが、「周知」が適切では。 | ・表現を再考<br>・⑤料理教室の開催ではなく、余った食材などを活用したエコクッキングの推進などが現実的<br>・⑥検討→周知へ文言を変更 |
| | ・ダンボールコンポストを知らない人が多い<br>・「生ごみ処理器」のほうが市民に浸透している | ・イベントでのダンボールコンポストを展示、対面での説明を実施<br>・「生ごみ処理器」を全面に出して説明 |
| | ・ダンボールコンポストには以下の制約あり<br>－大きな調理くずの分解に時間を要する<br>－肉や魚の投入可否が不明瞭<br>－多人数世帯における容量不足<br>－季節によって発酵速度が変化<br>－動物被害（野良犬等による荒らし）への懸念<br>－単身世帯では生ごみ分別がめんどくさい | ・選択肢の提示（ダンボールコンポスト以外にも、世帯や住居形態・ニーズによってどのような資源化方法があるか、選択肢を示せるとよい）<br>・地域循環システムの構築も必要（家庭内での資源化で完結できないものもあるので、地域単位で分別収集・資源化できる仕組みがあるとよい） |
| 4.3.2　施策③：地域内での生ごみ循環の促進 | ・市民の協力度合いが不明 | ・市民の反応等をみながら段階的に拡大 |
| 4.3.2　施策④：事業系食品廃棄物減量・リサイクルに向けた取り組みの推進 | ・⑧「自治体主導型フードシェアリングサービス」とあるが、「自治体主導型」でないといけないのか。民間主導のサービスもある。<br>・⑧「～事業系食品ロスを削減する」とあるが、そう言い切れるか。<br>・事業者の役割が不明確 | ・表現を再考（行政の役割を勘案し、啓発する、推進する、検討するなどといった文言に修正する）<br>・事業者の責務（食品廃棄物の発生抑制（自家処理）、資源化、適正処理）の明確化 |